

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 330 号	氏名	永吉 茂樹
学位審査委員		主査	佐々木 均
		副査	伊藤 敬
		副査	中尾 一彦
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、日本に多い生体肝移植（部分肝移植）における免疫抑制剤血中濃度の変動を、肝再生の過程から検討したもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 70%肝切除ラットをモデルとして用い、再生過程において、代表的免疫抑制剤である cyclosporinA（以下 CyA）を経日的に経口投与し、血中濃度および肝機能を解析しており、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 CyA 投与による肝毒性は認められなかった。肝切除群では、CyA の血中濃度は、術後 3 日で最高となり、その後徐々に低下した。肝切除群の CyA 血中濃度は、対照とした単開腹群のそれよりも優位に高値であった。しかし、CyA の代謝酵素である CYP3A2 の mRNA は、肝再生初期から十分発現していることが明らかになった。細胞レベルでは十分な酵素発現があるものの、肝切除初期に代謝能が減少することから、この減少は主に組織量の不足に由来することが示唆された。また、再生による組織量の増加により正常な代謝能に回復する可能性が示された。</p> <p>これらの研究は極めて有用性が高く、今後の肝再生医療への進展が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は移植医療研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			